

(様式6)

齋藤 拓之 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Predictors of life-space mobility in patients with fracture 3 months after discharge from convalescent rehabilitation ward: a prospective longitudinal study
(回復期リハビリテーション病棟退院3ヶ月後の骨折患者における生活空間の予測因子：前向き縦断研究)
Journal of Physical Therapy Science (in press)
Hiroyuki Saito, Miyuki Sato, Masaki Kobayashi, Toru Saito, Takafumi Shimura, Kentaro Yotsumoto, Yota Hanai, Yoshio Tanizaki, Shigeru Usuda

論文の要旨及び判定理由

骨折患者の将来の生活空間移動レベルを予測することを目的とした。縦断的観察研究により、回復期リハビリテーション病棟入院中の骨折患者の、退院時に測定したFalls Efficacy Scale-International (FES-I)、最大歩行速度 (MWS)、Timed Up & Go test (TUG)、Berg Balance Scale (BBS)、modified Elderly Mobility Scale (mEMS)、Functional Independence Measure (FIM)、改訂長谷川式認知症スケール (HDS-R)、Vitality Index (VI) の結果から、退院3ヶ月後の生活空間移動レベルに関連する予測因子を明らかにした。対象は、回復期リハビリテーション病棟から自宅への退院が予定されている65歳以上の骨折患者連続症例とした。測定は退院前2週間以内(ベースライン)と退院3ヶ月後(フォローアップ)の2時点で実施された。ベースラインの主要測定項目はFES-I、MWS、TUG、BBS、mEMS、FIM、HDS-R、VIで、フォローアップはLife-Space Assessment (LSA)を電話調査により測定した。LSA合計点を従属変数として、LSA合計点と各測定項目値との相関係数の絶対値が0.4以上の項目を独立変数として、重回帰分析を行った。またLSA合計点と「町外への外出の有無」を従属変数とし、多重ロジスティック回帰分析を行った。重回帰分析では、FES-I ($\beta = -0.29$)、mEMS ($\beta = 0.28$)、年齢 ($\beta = -0.34$)、性別 ($\beta = 0.19$) が予測因子として選択され、多重ロジスティック回帰分析では、FES-I (Odds ratio=0.92)、年齢 (Odds ratio=0.93)、性別 (Odds ratio=6.54) が予測因子として選択された。本研究では、生活空間には運動機能のみでなく、転倒関連自己効力感との関連が明らかとなった。以上の結果から、本研究は、セラピストが骨折入院患者の退院後の生活空間移動レベルを考慮した適切なリハビリテーションの目標設定とリハビリ治療方針の立案に寄与するものであると認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(令和5年2月14日)

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 田 鹿 毅 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 久 田 剛 志 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 山 上 徹 也 印

参考論文

題目 回復期リハビリテーション病棟入院患者における歩行自己効力感の経時的変化
の検討

理学療法科学 36 : 223-237, 2021

齋藤拓之、佐藤みゆき、齋藤徹、藤井一弥、臼田滋